

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 4年 3月 25日

事業所名発達センターちよだ

保護者等数(児童数)

回収数

17割合 71%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	9	2	4	1	・狭いと思います。部屋数・構造状どうしようもないが、もっと広い部屋であるべきだと思う。 ・今年度から定員が増えたが建物は変わらず、各クラスの部屋の狭さを感じる。 ・園庭は広いですが、部屋のスペースは少し足りないと思う。 ・親子登園の時は人数が倍になるので狭さを感じるが、通常保育の時は問題ないと思う。	子どもたちの状況により、スペースを広げていきます。 また、クラスの数に合わせて、活動場所を変えていきます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	3	8	4	2	突然の休職に精一杯対応したのは分かるが、満足できる対応とは言えない 人数が増えたにも関わらず、担任の配置が増えなかったのは、少し不安になった。先生たちがとても大変そうに感じた 人数が足りていても急な変更が多く子どもたちには戸惑う結果になったかも それぞれ経験年数に応じた専門性が発揮されていると思う。 人員が不足していると感じる ちよだ組は途中から担任が変わることがあり、先生のことをしっかり知ることができないまま過ぎてきてしまったと感じます。 親子遊びも少なく、先生と子供がどのような関わりをするかは連絡ノートでしか把握できず専門性のある対応ができていないのかは判断するのが難しいと感じました。 ナース、リハスタッフがいなくて 配置数は問題ないですが、訓練などが出来る専門の先生もいて欲しい	迅速に職員の補充をしていきます。 また、専門性を高めていくために、児童発達支援センターとともに専門性を向上していくために、連携を強固にしていきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	6	4		施設が老朽化しており、子どもの保育環境として不適切だと思う。 バリアフリーになっていない。子どもたちが飽きないように先生方の工夫が感じられました。建物が古くバリアフリー化されていない。自分のマークがあるのはわかりやすく良い。お部屋の数も少ないので子供たちも施設内を把握しやすく安心すると思う。段差や扉の開閉、ガラス扉については改善して欲しい。段差や建物の老朽化、教室のドアで指を挟みやすいのが気になります。	修繕していく箇所については、確認次第早急に修繕を行っていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8	4	4	1		快適な生活環境になるように、引き続き清潔に保っていきます。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	16			1	本人支援(園内での療育)が中心となっており、家族支援と地域支援は手薄だと感じる。 具体的な支援内容になっていると思う。 具体的すぎず、適切な内容かと思えます。	引き続き支援計画を作成していきます。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	1	2	14		子どもや保護者をよく観察して把握した上での計画になっていると思う。はい 支援計画は保護者の意見や子供の普段の様子から総合的に捉えたものになっていると感じる。	
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	16		1		クラス担任の先生達は計画に沿った支援が行われていると思う。	引き続き続けていきます。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	15			2	クラスの枠を超えた保育など楽しそうでした コロナ禍で難しい中、工夫されていると思う。同じ「がらがらどん」の遊びでも、違う切り口や少し発展させた遊びなど、遊びから更に広げて楽しさを膨らませているように感じます。固定化された印象はありません。	固定化されないように、子どもの姿からプログラムを検討していきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	2	14		全くないが、個人的にはそれを求めない。コロナ禍ですので仕方ないと思いますが、障害のない子どもたちとの交流は月一であった方がいいと思います。コロナ禍以前のことは分かりません。きょうだいとの交流はあるが、他の園との交流機会はない。なんとも言えない 妹の保育園へのお迎え(たまに...)や週1回の習い事で定型発達の子供と交流する機会があります。コロナ禍で難しいと思いますが、進路を考える時にも参考になるので交流したいです。	コロナ禍ということもありますが、状況を確認次第、検討していきます。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16			1	園長から説明があった。また質問には、分かる職員から丁寧に説明してもらっていた。入園直後にはありましたが、進級時は特にありませんでした。質問すれば良いことなので、特に丁寧に毎年説明の必要はないかと思いますが、見守りを利用し始める時など大きく変化する時はもっと詳しく説明いただけたら良いかと思いました。	どのクラス職員でも説明できるように、制度についても学習を続けていきます。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	15			2	ガイドラインのことがよくわかりません。	児童発達支援ガイドラインについては、保育者も含めて研修をしていきます。どのようなガイドラインが必要なのかも検討し合っていきたいと考えています。

12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	9	3	1	4	全定期的に研修が行われていると思う。困りごとは頻繁にお話して、ちよだでの様子も聞けていますが、PTレベルの内容か考えると少々足りない気もします。もう少し減らしてもいいくらいです	ちよだでは、ペアレントトレーニングは実施していません。しかし、親子登園期間に親子療育プログラムを実施しています。
----	---	---	---	---	---	--	--

保護者への説明等	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	16	1		毎日お迎えの際に、その日の出来事、成長などをお話していただきます。子供がどのように過ごしているのがとてもわかりやすいです。小さな気付きなど教えていただき助かることが多かったです担任、園長、副園長とは共通理解できていると感じている。体調については保護者よりよく見てくださっている気がします。課題についても変化を逐一教えてくださるので、共通理解の点は言うことがありません。	引き続き、保護者の方とやりとりを通して連携していきます。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16	1		定期的に行われる面談とは別に希望時にも面談できていて助かっている。個人懇談やクラス懇談会でカバーできていると思います。	今年度より、園だよりに個別懇談申し込みを作りしました。引き続き実施していきます。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	16	1		コロナ禍なので仕方ないと思います。保護者会参加の圧を少なからず感じました。定期的に保護者会が開催できるように支援してもらっている。保護者会の役員内トラブルにも介入いただき、感謝でしかありません。ご迷惑をおかけいたしました。コロナ禍で大変な中、機会を与えてくださり大変ありがたい気持ちでいっぱいです	保護者会とともにちよだに通う子どもたちのために連携をしていきます。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	14	3		相談した時は速やかに対応してもらっている。前半期は特に感じませんでしたが、後半の担当が変わってきてから少し連絡が行き届いていない感がありました。ノートに記載した質問もスルーされてしまったこともありましたので。。。	朝の打ち合わせ、連絡ノートを通して、クラス以外にも対応できるように確認していきます。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	16		1	連絡帳の書式の改正など配慮されている。違うクラスの担任までの周知方法がもう少し改善されてもよいように感じる。母が親子登園できない分、穴埋めして下さるようにお話をしてくださり大変感謝しております！	引き続き連絡ノートを通して、行っていきます。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	14	1	2	行事予定の開示が遅いのが困る。年間予定を出してほしい。コロナ禍でしかたないとは思いますがもう少し早く行事予定の連絡があると助かります 園だよりにより情報発信されている。自己評価??どのような内容を指しているのかわかりません。	2ヶ月分の行事予定を配布していました。また、年間計画についてもクラス懇談会等でお伝えをさせていただきます。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	14		3	特に気になったことはありません。	
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	15	1	1	周知、説明があったことが記憶にはない。クラス間で園外保育や親子あそびの実施の判断が違うように感じるが、園として統一されていないのか疑問に感じる。緊急事態宣言化でも園外保育を実施しているクラスもあったが、問題ないのか疑問に感じた。	園外保育については、回数の違いは生じてしまいました。園全体で統一し、クラス間で差がないようにしていきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16		1	定期的に避難訓練がおこなわれている。行事予定表に記載があり、ノートにも書かれていることもあります。	引き続き必要な備え・訓練を行っていきます。また、保護者とともに実施する機会も増やしていきます。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	15		2	とても楽しみにしています！楽しみにしています。到着するとニコニコです！とても楽しみにしています	
	23	事業所の支援に満足しているか	14	1	2	”もっと家庭への支援方法について職員が勉強し、支援をしてほしい。コロナ禍の中、工夫されていて満足はしている。若い職員が多いので、難しい面もあると思うが、保護者の相談や質問にも、その場しのぎではない対応ができるように支援してもらえると、保護者としては安心感が増すように感じる。着替えの回数、トイレへの誘い、布パンツで過ごせる体験など、家では対応しきれいな大事な経験をさせてもらっています。満足しています 概ね満足しているが、訓練なども受けられるようになって欲しい”	若い職員も多いですが、保護者支援の方法も含めて、研修を積み重ね、その場しのぎの対応にならないように、園全体で対応をしていきます。

〇この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。
園長 伊藤輝人 児童発達支援管理責任者 水野裕貴

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和4年3月23日

公表:令和4年3月25日

事業所名:発達センターちよだ

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%	園庭も使い、のびのびと過ごす事ができている。	
	2 職員の配置数は適切である	53%	47%	通園の稼働により、完全とは言わないまでも、概ね適切である。今現在でいえば足りないと思うこともあった。	産休の職員や病休の職員がいるが、代替え職員がいないことがあった。引き続き欠員が出ないように努力していきます。

体制整備	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	47%	53%	子どもの洗面所にある手作りの棚が使いやすかった	修繕箇所にはついては、その都度改善している。また、今年度は乗降時に雨に濡れないように、カーポートを設置しました。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	87%	13%	登園前、降園後に清掃を引き続き実施している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	79%	21%		法人全体で検討していきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			オンライン研修も含めて、施設研修も引き続き、専門性を高めるために実施していきます。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	64%	36%		標準化されたアセスメントツールは使用していませんが、共通の発達の票を使ってケース検討を実施しました。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	73%	27%	午睡時間なども有効に使いながら、実施してきた。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	87%	13%		様々な業務も重なっているが、全員が集まらなくても、職員間の連絡ノートも作成しながら実施していきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%				
関係機関や保護者	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	92%	8%		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	91%	9%		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	78%	22%		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			

育 と の 連 携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	92%	8%		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	80%	20%		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	75%	25%		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	93%	7%		
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	92%	8%		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	86%	14%		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	46%	54%	コロナ禍のため実施できていない。	2022年度は実施していく方向で検討を始めました。
	非 常 時 等 の 対 応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	64%	36%	毎月、必ず11日の前後で実施している。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	87%	13%		
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	93%	7%		
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	93%	7%		食事アレルギーについての研修を図っていきます。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	93%	7%		
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	93%	7%		障害者権利条約、子どもの権利条約についても引き続き学習を進めていきます。
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	77%	23%		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。
 発達センターちよだ デイサービスちよだとも全職員で実施しました。
 園長伊藤輝人 児童発達支援管理責任者:水野裕貴 児童発達支援管理責任者:山口さくら